

自分の事は、自分が一番よく知っている。こんな風に言われる方がありますが、本当にそうで反面、その思い通りにいかず右往左往している姿こそ、私たちの本当の姿のように思います。

淨土真宗は造花ではなく『生花』とよく聞きますが、どうしてなのでしょうか？

正休寺だより

# 正休寺だより

第11号

2023年8月1日発行  
青森県北津軽郡板柳町  
大字板柳字土井241  
TEL. 0172-73-2016



## 【キャンドル作り】

2022年12月18日(日) 参加者30名  
好きな色、好きな香りをつけ、ドライフラワーで飾りました。  
それぞれの個性が光った素敵なお花が作られました。

開催につきましては、「ご参加の方々に準備や後片づけのお手伝いをしていただき、協力して為しましたものとなりました。大変ありがとうございました。」  
このような催しが、御講再開への手掛かりになればとの思いです。お寺にお参りし、声を出して正信偈をおつとめする。ご法話を聞き、皆と御齋をいただく。ご本尊のもとで教えを聞いていく聞法の場を、そして皆さんと共に過ごす時間をどうなかたちで繋げていくことがができるのか。回答を目指し検討しています。



## 【お寺DEお餅DEバイキング!】

2023年2月28日(火) 参加者 約70名  
いろいろな味でお餅を食べました。  
焼きたてのお餅を提供できれば良かったのですが…… 次回への課題です。

## 久しぶりの再会に 賑やかな声が響く

新型コロナウイルス感染症が広がり始めて三年あまり。生活においてたくさん配慮が必要になり、お寺においてもどかしい日々が続いておりました。人と会い共に過ごすことを大切にしたい。そういう思いのなか、催しを計画いたしました。お寺にあるろうそくを使つたキャンドル作り。手作りのごまだれや漬け物の提供もあり、数種類の味を楽しんだお餅DEバイキング。予想をしていたよりも多くの方のご参加があり、本堂でお勤めをした後は、大広間や廊下に賑やかな声が響きわたりました。久しぶりにお会いして楽しそうに話される表情や、声を掛け合いながら作業をしたりお食事をされる様子は、とても嬉しかったような気がします。

人間は一人の人との出会いから生きることが出来る

先日、初めて本山へお参りをして来ました。あいにくの雨でしたが、お参りされている観光客の方もたくさん居て驚きました。早い時間だったのに、朝のお勤めとお掃除をしている様子も見ることができて、気づけば二時間くらい居たと思います。広い境内と、どこか落ち着く本堂、お勤めをしながら手を合わせる空間が心地良かったです。門前を歩いていると、いくつもの有難いお言葉がありました。法語行灯(ほううごあんどん)と言うそうです。

(若坊守)

**敬弔 光井敏克氏 行年八十二歳**  
長年にわたり、正休寺の法務をお手伝いしてくれました。生前のご功績に謹んで御礼申し上げます。

第11号

## 若坊守の 行ってきた



生花は、私たちと同じ生きものです。水をやらないと枯れてしまうし、夏場は、四、五日もすれば、茎が腐つてドロドロになってしまいます。冬は、お花の水が凍つてしまいダメになってしまいます。備えた時は綺麗ですが、それはいつまでも続きません。

これを「無常」と言います。常に在り続けるものは無いという事です。ここで『生花』を通していのちの無常を私たちに伝えているのです。しかし、私たちはその事を分かつていても、見

写真や、いろんなことを思い浮かべながら、手を合わせてみても良いです  
が、ご本尊を仰ぎ見ながら、お念仏申す事を念願致します。

(副住職)



## ◇親鸞聖人直弟子のお寺◇

## 関東二十四輩めぐり

親鸞聖人の直弟子が建てられたお寺を「二十四輩」とい

ます。その多くは関東ですが、盛岡市内に是信が開基となる本誓寺があります。

是信は藤原氏一門の公家であつたと伝えられ、一一八一年京都に生まれ、大納言に任せられましたが流罪の身となつた。赦免された後も、京には戻らず求道の志を固め、親鸞聖人のもとに参じて師弟となつたという。

一二一五年、是信は聖人が四十三歳の時、奥州教化の使命を受け、岩手県紫波町に本誓寺の寺基を定め、一二六六年、八十六歳で往生の素懐を遂げた。

その後、一五八四年に南部藩の命により盛岡に移転し現在の本誓寺は正休寺の本堂の二回りほど大きい総ケヤキ造りの壮大なもので、盛岡駅から車で五分程の場所にある。

(住職)



宗八百年慶讃法要」が今年の三月二十日から四月二十九日にかけて京都東本願寺で勤まつた。法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと期間中約十万人が各地から参詣されたが、そのお一人お一人の願いは何だったのでしょうか。

### 「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開

五日から四月二十九日にかけて京都東本願寺で勤まつた。法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のもと期間中約十万人が各地から参詣されたが、そのお一人お一人の願いは何だったのでしょうか。

『歎異抄』に「おののおとえに往生極楽の道を聞い聞かんがためなとえに往生極楽の道を

して、尋ねきたらしめたまう御こころざしひえて、身命をかえりみず

十余か国のさかいを越して、尋ねきたらしめたまう御こころざしひ

Shinran S500th 南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

とえに往生極楽の道を聞い聞かんがためなとえに往生極楽の道を

「往生極楽のみち」を明らかにすること代に突入し、「いつまでも健康で長生きしたい」が多く人の目標となつた。しかし、長生きするという事はとても大事ですが、長生きして何をしたいのかが問われてくるのです。

立教開宗八百年の今、人生百年の時代に突入し、「いつまでも健康で長生きしたい」が多く人の目標となつた。しかし、長生きするという事はとても大事ですが、長生きして何をしたいのかが問われてくるのです。

長生きするというのは、いつまでも自分の体は同じでない、歳を重ねるごとに体が思うように動かなくなり、八十五歳も過ぎてると脳が委縮し認知機能が衰えてくる。長生きを求める結果が寝つきりと痴呆であるならばあまりにも残念なことです。

つまり、生きる意味がはつきりしな

いということは、行先不明の旅客機に搭乗し、燃料切れで墜落してゆくことと同じなのです。この問い合わせるも

のとして今回の法要のテーマ「南無阿

弥陀仏 人と生まれたことの意味をた

ずねていこう」が生まれたと思われます。

人として生まれ「生老病死」を受け

いかねばならないことの意味が分から



ないと、NHKのチコちゃんに「ボーッと生きてんじやねえよ!」と叱られるのではないか。か分からぬ蓮如上人は「無常のかぜきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかりねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにならんことをば、しらぬ体にてす」というもなおおろかなり。」と教えてい

ます。

本当に生まれたことの意味がハッキリしないと、何のために長生きしたいのか分からぬ蓮如上人は「無常のかぜきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかりねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにならんことをば、しらぬ体にてす」というもなおおろかなり。」と教えてい

ます。

本当に生まれたことの意味がハッキリしないと、何のために長生きしたいのか分からぬ蓮如上人は「無常のかぜきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかりねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにならんことをば、しらぬ体にてす」というもなおおろかなり。」と教えてい

ます。

本当に生まれたことの意味がハッキリしないと、何のために長生きしたいのか分からぬ蓮如上人は「無常のかぜきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかりねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにならんことをば、しらぬ体にてす」というもなおおろかなり。」と教えてい

ます。

本当に生まれたことの意味がハッキリしないと、何のために長生きしたいのか分からぬ蓮如上人は「無常のかぜきたらんことをば、しらぬ体にてすぎゆきて、後生をばかりねがわず、ただ今生をばいつまでもいきのびんずるようにならんことをば、しらぬ体にてす」というもなおおろかなり。」と教えてい

## 見て、食べて、ゆっくり温泉に

~同朋の会で日帰り旅行へ~



7月20日(木)、26名の参加で六ヶ所村へ行つて来ました。原燃PRセンターを見学したあと、スパハウスろっかぽつかにて昼食、カラオケ、温泉を楽しみました。道の駅にも立ち寄り、乗り心地の良い大型送迎バスのお陰で、少し長かった道のりも会話がはずみ、楽しい1日となりました。



心臓マッサージをする菅原さん

### もしもに備えて救急訓練

**浄土真宗 now(5日)**

8月5日(土)、10月5日(木)、12月5日(火)  
13:00~14:30

①まず、お寺(正休寺)  
☎ 0172-173-12016  
に相談する。

2月スマホ教室・グループラインを作成

4月はなまつり・ブーケ作り

6月坊守の小話・門徒さんによるおつとめ

**お庫裏からのつぶやき**

今年六月三日、十五年一緒に暮らした我が家のかねちゃんモモが亡くなりました。腎臓が悪くなり、食欲が落ち、最期は点滴をしながらの三ヶ月でした。

モモとのお別れで一番涙が出たのは、火葬に行く車の中でした。膝の上でモモを抱いていると、ふらふらになりながらか細くなつた足で必死にトイレまで歩いて行つた姿や、同じ部屋で寝ていた私の布団に上がる姿を思い出し、涙があふれ出てきました。モモとの日々に思いを巡らせていくと、いつの間にかほわっと温かくなつていていました。がつきました。いつもモモと過ごす時間は嬉しかった、代わるもののがなかつた。その時間が戻つていたのです。膝の上で撫でているモモの体は冷たく硬くなつっていましたが、私の心は温かさで包まれていました。先日スマホを見ていると、「スマホの画面眺め、誰かの暮らしを覗いても、変わんね」という言葉を目にしてしまった。画面越しにこつそり覗くだけではなく、その人に会いに行きましたか。電話で声を聞きませんか。人と関わる中での面倒な事も、思い出話になる頃には同じ時間を過ごした温かさに変わるように気がします。

一緒に時を過ごすというのは温かい。そうモモが教えてくれました。

(坊守)

④中陰を勤める。(初七日から四十九日)

③通夜・葬儀を勤める。(通夜と葬儀は別々のものではありません。両方を勤めてお葬式と言います。)

②親戚への連絡、葬儀社を決め日程の打ち合わせをする。

①都度、私たちの大切なご縁として勤めましょう。